

令和元年9月13日

報道機関各位

熊本大学

国際シンポジウム「近代の音と声のアーカイブズ」開催のお知らせ

来る2019年9月17日(火)16:00~20:00、熊本大学文法棟1F A3教室にて、熊本大学教育学部音楽学講座主催 — ボン大学人文学部日本・韓国学専攻の共催で、以下の国際シンポジウム「近代の音と声のアーカイブズ」を実施することになりましたのでお知らせいたします。

内容は、世界各地で始まりつつある様々なメディアの保存と公開の現状について、ボン大学日本映画講義SPレコードコレクションのデジタル化・公開プロジェクト事例を中心に、ドイツ・ボン大学日本・韓国学専攻主任教授のラインハルト・ツェルナー教授、および同専攻で比較メディア史を研究されている熊本出身の湯川史郎先生による基調講演ほか、パネル報告として、紙史料による音空間の再構築の可能性(山田高誌)、RKK熊本放送所蔵のSPレコード・コレクション(RKK宮脇利充、田尻浩章)、NHKテレビ番組「みんなのうた」資料発見と番組再構築(佐藤慶治)、熊本大学の水俣病テープ資料のデジタル公開化(香室結美)、九州大学総合博物館所蔵SPコレクション(大久保真利子)などの取り組み事例をもとに、多彩な文化を誇る熊本の記録の保存のあり方とその将来を、参加の皆さんと共に考えたいと思います。

大学/音楽学から自治体、企業に向けたサウンドアーカイブズ構築への新しい取り組みの試みに、皆様からご助言を頂けますとありがたく思います。

プログラム

■16:00~ ご挨拶:

古島幹雄 ◆ 熊本大学 理事・副学長

佐藤祐治 ◆ 元熊本県芦北振興局長・元熊本県県政文書課長

■16:10~ パネル報告:

趣旨説明 湯川史郎 & 山田高誌

山田高誌 ◆ 熊本大学教育学部音楽科・音楽学講座 准教授(音楽学・オペラ史)

「音空間を再構築するための紙史料 ~ 18世紀後半のナポリの公証人史料の事例から」

佐藤慶治 ◆ 精華女子短期大学幼児保育学科 専任講師(音楽教育学)

「戦後のNHK児童番組の資料保存についての現状と『みんなのうた』写真資料の発見」

宮脇利充 ◆ (株)熊本放送 ラジオ局次長 / ラジオ制作部長

田尻浩章 ◆ (株)熊本放送 テレビ局メディア推進部長

「RKK熊本放送所蔵、森・繁コレクションSPレコード、デジタル化と公開への取り組み」

香室結美 ◆ 熊本大学文書館 特任助教(文化人類学)

「水俣、声のバトン ~ 民衆史家・岡本達明の聞書とカセットテープ」

■18:00~ 基調報告:

ラインハルト・ツェルナー ◆ ボン大学人文学部日本・韓国研究専攻 主任教授(日本・東アジア史)

湯川史郎 ◆ ボン大学人文学部日本・韓国研究専攻 学術専任講師(比較メディア史)

「ボン大学 <片岡プロジェクト> ~ 無声映画SPレコード・コレクションのデジタル化による学術・文化資源化」

■19:10~ ラウンドテーブル:

ディスカッション 大久保真利子 ◆ 九州大学総合研究博物館 専門研究員(音楽学・近代日本音楽)



近代の音と声の

アーカイブズ

種々のメディア領域での取組と
熊本におけるこれからの展望

日時： **2019.9.17** (火) 16:00-20:00
場所： 熊本大学 文法棟本館 1階 A3教室

一日限りのスペシャルな国際シンポジウム

本シンポジウムは、*ドイツ連邦教育・研究省研究費(ラインハルト・ツェルナー代表)「片岡SPコレクションのデジタル化」、*文部科学省科学研究費(山田高誌代表: 基盤B 18H00625)「ナボリの劇場(音楽・演劇)史構築に向けての、18世紀公証人文書史料の重点調査」、*文部科学省科学研究費(佐藤慶治代表: 若手B 18K13115)「NHK『みんなのうた』を中心とした日本児童音楽文化の変遷に関する歴史社会的な研究」、各研究助成による共催事業です。



主催：熊本大学教育学部音楽学講座
共催：ボン大学人文学部日本・韓国学専攻
協力：(株)熊本放送、毛利真人(レコード史研究者)、熊本大学文書館、九州大学総合博物館
後援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本大学文学部・文化資源コース、熊本大学教育学部、Denkikan、熊本大学・大学教育統括管理運営機構長附属グローバル教育カレッジ
(ドイツ連邦教育・研究省・文部科学省 科学研究費助成・一般向け国際シンポジウム)

近代の音と声のアーカイブズ

～種々のメディア領域での取組と、熊本におけるこれからの展望～

もはや文字だけでなく、文化とそれを取り巻く人々の息づかいを音と映像で三次元的に残すことは急務となっている。

20世紀後半からのメディアの発展は目覚ましいが、しかし、それらは個人コレクションに多くを負い、さらに各種メディア（記録媒体）を横断的に保存するガイドラインが存在しないまま、今やレコード、テープなど古いメディアの存在自体が消滅する事態を迎えている。

本シンポジウムは、世界各地で始まりつつある様々なメディアの保存と公開の現状について、ドイツ・ボン大学日本・韓国学専攻主任教授のラインハルト・ツェルナー教授、および同専攻で比較メディア史を研究されている熊本出身の湯川史郎先生をお招きし、ボン大学のSPレコード・コレクションに関する取り組みについて報告頂くとともに、RKK熊本放送所蔵のSPレコード・コレクション、NHKテレビ番組資料、熊本大学のテープ資料などの取り組み事例をもとに、多様な文化を誇る熊本の記録の保存のあり方とその将来を、参加の皆さんと共に考えたいと思います。

登壇者



ラインハルト・ツェルナー Reinhard Zöllner

1961年南アフリカ共和国ブルームフォンテン市生まれ。ドイツ・キール大学人文社会学部にて歴史学、ラテン語を専攻。ハンブルグ大学にて日本学を専攻。1983～1985年、上智大学比較文化学部留学。1993年キール大学人文社会学部博士課程修了。1997年トリア大学にて教授資格取得。1990～1997年、デュッセルドルフ大学現代日本学研究室講師。1997～1999年、ハレ大学・日本学研究室教授(近代日本経済・社会学)。1999～2008年、エルフルト大学・東アジア史講座主任教授。2003～2004年、米国シシガン大学日本センター客員教授。2008年からボン大学日本・韓国研究専攻主任教授。



湯川 史郎

熊本出身。2000年岡山大学文学部修士号、2010年ドイツ・エアフルト大学博士号取得(分野:メディア・コミュニケーション学/比較文学、東アジア史)。2010年ボン大学人文学部アジア研究科日本・韓国学専攻専任講師。2014年から同専攻学術専任講師として修士日本学とTEACH(日独共同修士プログラム)の演習を担当しつつ、日本語教育の責任者を務め、eラーニングやeアセスメント導入のプロジェクトを進める一方、同専攻が所蔵する非文字資料(絵葉書、写真、スライド、フィルムなど)のデジタルアーカイブ化による学術資源化プロジェクトを進める。2018年より「片岡プロジェクト」のコーディネーター。研究領域は比較メディア史。現在は1930年代から1940年代の日本と満洲の音声・映像メディア史を中心に取り組む。近刊に『メディア、政治、学問における北東アジア(Nordostasien in Medien, Politik und Wissenschaft)』(共編、EB-Verlag, 2019)。



山田 高誌

西宮市出身。専門は音楽学、オペラ史。1998年度早稲田大学教育学部社会科卒業。大阪大学大学院文学研究科博士前期課程、同博士後期課程(音楽学)修了。2002年よりイタリア国立バリー音楽院上級ディプロマ(記譜史)取得。(独)日本学術振興会特別研究員SPD、同会海外特別研究員、大阪大学大学院助教(音楽学)、東京芸術大学兼任講師を経て、現在、熊本大学大学院人文社会学部教育研究科(熊本大学教育学部 音楽学講座)准教授。主に18世紀ナポリのオペラと劇場文化について、台本、楽譜、経済、法律史料の発掘調査を通して三次元的な解明を行うほか、2018年にはローマ国際交流基金日本文化会館において「八千代座に関する国際シンポジウム」を企画するなど、日本の劇場についての研究にも取り組んでいる。共著『Da Napoli a Napoli』Musica e musicologia senza confine (RIM, 2012) など。



佐藤 慶治

熊本県高校、国立音楽大学音楽学部声楽専修卒業。熊本大学大学院教育学研究科音楽教育コース修士課程、九州大学大学院比較社会文化学部博士後期課程修了。博士(比較社会文化)。精華女子短期大学幼児保育学科専任講師。比較文化学、音楽教育学等を専攻。現在、文部科学省科研費(若手研究)を取得してNHK教育番組「みんなのうた」の研究を行っており、学術論文「1960-70年代におけるNHK「みんなのうた」と西洋ポピュラー音楽」等を刊行。また、同科研費(研究成果公開促進費)を取得し、本年10月に単著「翻訳唱歌と国民形成」を九大出版会より刊行予定。



宮脇 利充

熊本県出身。1984年、東京理科大学法学部政治学科卒業。同年、熊本放送にアナウンサーとして入社。その後、テレビ制作部、報道部、ラジオ編成制作部と、制作部署をすべて体験。制作した番組に「ムーブ」(愛をあげて九州)「種田山頭火」(熱血ジャゴ一座、只今巻上!) (テレビ)、「ラジオの時間」(RKKロックンロール放送局)(ラジオ)など。現在、「村上美香のヒトコト」(ラジオ)を制作している。



田尻 浩章

熊本県出身。1992年熊本大学工学部電子情報工学科卒業。同年、熊本放送(RKK)入社。オンエアに伴うスタジオバイオスタジオカメラ業務や社内ITの構築管理を担当する傍ら、1996年頃から自社番組ウェブサイト立ち上げに関わる。2008年4月経営戦略部を経て、2012年4月メディア広報部、現在に至る。2009年7月「インターネット中継＝熊本日食ライブ」においてツイッター導入を提案、系列(TBS系列)でも先駆的な取り組みとなった。2011年に行ったRKKウェブサイトリニューアルにも大きく関わり、拡大するソーシャルメディアを意識したサイト作りを寄与した。受賞歴 2010年 ツイッター運用AIRアプリ「Twit-R」プロジェクト・JNN技術賞優秀賞。2015年11月「ウェルカム!アブリプロジェクト」JNN技術賞受賞。



香室 結美

佐賀市出身。専門は文化人類学。2007年ボン大学交換留学、熊本大学大学院文学研究科修士課程修了。熊本大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(学術)。南部アフリカ・ナミビアで暮らすヘレロ人の衣服・ファッションの創造について、ナミビアにおけるドイツ植民地主義の影響という観点から文献研究と現地調査を行い明らかにしてきた。その後水俣病についても研究を始め、2016～2017年度水俣市立水俣病資料館学芸員(身分は熊本大学・特別事業教員)として行政と大学の連携をコーディネート、企画展発表・実施、資料整理・デジタル化・データベース立ち上げ・保存・公開に携わる。2018年度より熊本大学文書館特任助教。水俣病関係資料を中心とした資料の受入・目録作成・公開に取り組む。単著「ふるまひの創造」ナミビア・ヘレロ人における植民地経験と美の諸相」2019年、九州大学出版会。



大久保 真利子

福岡県久留米市出身。大阪芸術大学音楽学専攻音楽工学コース卒業。同大学院博士後期課程芸術研究科修了。博士(芸術文化学)。三味線音楽のひとつである長唄を対象として、明治以降におこなわれた楽譜化とSPレコードによる録音というふたつの記録化についての研究をおこなっている。近年は日本国内の各機関が所蔵するSPレコードのデジタルアーカイブ化の実現に向けての取り組みもはじめている。現在、九州大学総合研究博物館専門研究員、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究員、相愛大学伝統芸能コーディネーター育成プログラム特別研究員、福岡女子短期大学非常勤講師。論文に「田村信史作成のSPレコードデータベース—その特徴と公開に向けての課題—」(九州大学総合研究博物館研究報告、2018) など。

16:00 ご挨拶

古島 幹雄 熊本大学 理事・副学長

佐藤 祐治 元熊本県芦北振興局長・元熊本県県政文書課長

16:10 パネル発表

山田 高誌 音空間を再構築するための紙史料～18世紀後半のナポリの公証人史料の事例から

佐藤 慶治 戦後のNHK児童番組の資料保存についての現状と『みんなのうた』写真資料の発見

宮脇 利充 / 田尻 浩章 RKK熊本放送所蔵、森・繁コレクションSPレコード、デジタル化と公開への取り組み

香室 結美 水俣、声のバトン～民衆史家・岡本達明の聞書とカセットテープ

18:00 基調報告

ラインハルト・ツェルナー / 湯川 史郎

ボン大学 <片岡プロジェクト>無声映画SPレコード・コレクションのデジタル化による学術・文化資源化

19:20 ラウンドテーブル

デスクサント 大久保 真利子

全体司会

山田 高誌

特別ゲスト

毛利 真人 レコード史研究者



熊本大学 文法棟本館1階 A3教室

熊本駅前から産交バス、乗車約30分

熊本交通センターから産交バス、電鉄バス乗車約20分

ともに「熊本大学前」バス停下車

参加費：無料(先着順170人)

連絡先: yamada@educ.kumamoto-u.ac.jp

090-9866-5334 (山田)